

日本微量元素学会

Japan Society for Biomedical Research on Trace Elements



[トップページ](#)

[学会の概要](#)

[会員の皆様へ](#)

[学術機関誌](#)

[学術事業・集会](#)

[学会事務局](#)

[トップページ](#) > [学会の概要](#) > 理事長挨拶

ご挨拶

学会の概要

- [理事長挨拶](#)
- [沿革・目的・活動](#)
- [歴代理事長・歴代会長](#)
- [組織](#)
- [職務分担一覧](#)
- [定款](#)
- [役員選挙規定](#)
- [入会のご案内](#)
- [関連の学会・施設 HP](#)

日本微量元素学会は、1986年、Palm Springs で開催された第1回国際微量元素医学会議(ISTERH)に出席された野見山一生先生(第2代理事長)が「次回は日本で開催」という御土産を持って帰られ、1989年に東京で第2回国際会議が富田 寛先生(初代理事長)会長のもとに開催されましたが、これを契機に、それまで個々に活動しておりました微量金属代謝研究会、微量元素研究会、輸液微量栄養素研究会、微量栄養素研究会の4つの学術集会が核となり、医学、薬学、栄養学、農学、理学の広領域から成る学際的な学術集会として1990年4月1日に創設されました。日本微量元素学会は、1986年、Palm Springs で開催された第1回国際微量元素医学会議(ISTERH)に出席された野見山一生先生(第2代理事長)が「次回は日本で開催」という御土産を持って帰られ、1989年に東京で第2回国際会議が富田 寛先生(初代理事長)会長のもとに開催されましたが、これを契機に、それまで



第6代、第7代
日本微量元素学会理事長
荒川 泰昭

個々に活動しておりました微量金属代謝研究会、微量元素研究会、輸液微量栄養素研究会、微量栄養素研究会の4つの学術集会在核となり、医学、薬学、栄養学、農学、理学の広領域から成る学際的な学術集会として1990年4月1日に創設されました。

富田 寛先生を初代理事長、初代会長として発足以来、理事長職は野見山一生先生(第2代)、岡田正先生(第3代)、荒川泰行先生(第4代)、高木洋治先生(第5代)、荒川泰昭(第6代)へと受け継がれ、また毎年開催される学術大会の会長職は岡田 正先生(第2回)、木村修一先生(第3回)、野見山一生先生(第4回)、松田一郎先生(第5回)、和田 攻先生(第6回)、左右田健次先生(第7回)、森嶋隆文先生(第8回)、斎藤和雄先生(第9回)、丸茂文昭先生(第10回)、原口紘悉先生(第11回)、荒川泰行(第12回)、鈴木和夫先生(第13回)、高木洋治先生(第14回)、青木継稔先生(第15回)、桜井 弘先生(第16回)、荒川泰昭(第17回)へと受け継がれ、その間先駆的業績を挙げられている先生方のリーダーシップのもとに会員の皆様方のご研鑽ならびにご活躍により、日本における微量元素研究の唯一かつ中枢的学術集会へと発展しております。

本学会は「健康と微量元素」をスローガンに、保健、医療、製薬、化学、食品、環境、分析などの各分野において、疾病予防、健康の保持・増進のための「健康阻害要因の検索、分析、認知、作用機序解析、毒性評価、対策」や「生体機能の保持・増進」、さらに疾病における「診断、治療」などの見地から「微量元素」あるいは「金属」ならびに「金属錯体」を扱っている研究者の学際的な学術集会です。

第6期は、その中でもとくに1)「薬食同源と微量元素」、2)「微量元素の有用性と安全性」、3)「疾病発症要因と微量元素」、4)「臨床・診断治療と微量元素」、5)「生体機能(免疫、脳神経、内分泌)と微量元素」、6)「アレルギーと微量元素」、7)「生態系ならびに環境と微量元素」、8)「微量元素の生体内形態」、9)「金属錯体と生体」、10)「微量元素の腸管吸収」、11)「情報伝達系と微量元素」、12)「微量元素と細胞死(アポトーシス/ネクロシス)」、などを主要テーマとして取り上げる一方、健康維持増進のための「保健機能食品」ならびに疾病の予防・治療のための「医薬品」など「食薬融合領域」における微量元素の役割や有用性ならびに安全性、さらには「金属蛍光プローブの開発」、「金属治療

薬の開発」、「機能性金属分子の設計」、「生体における金属の新規機能性」など金属ならびに金属錯体の新規機能性の開発とその有用性ならびに安全性にもフォーカスを当てるつもりです。

また、本学会は急速に拡大化する微量元素の分野において上述のような種々の研究分野から産出される最新の成果や進歩を統合することを目的としており、この分野に興味を持つ各領域の研究者が一堂に会して最新の進展情報を交換し合い、プロセスをまとめ、対立する知見については議論し合い、研究の将来的局面や方向性を探り、新奇かつ魅力的な計画を立てるために集まることは大変望ましいことだと考えております。そのためには、出来るだけ質の高い機関誌を刊行し、魅力ある最新の情報や研究発表の場を提供することが肝要であると考えております。また、若い会員の方々のご意見や感性を尊重し、運営に生かすことも大変重要なことだと考えております。

そして同時に、学会としても社会的役割を果たすべく、人類、社会に対して良き「アドバイザー」となれるよう実力を蓄え、学問体系を整え、アセスメントする能力を養成してゆきたいと考えております。

そのため、今期は「学術企画・研究活性化」委員会ならびに「栄養ならびに毒性評価」委員会を新規に設けました。そして、学術事業を推進するため、「学術事業運営指針」や「手続きフォーマット」を新規に整備いたしました。さらに、学会運営を円滑かつ迅速に遂行するために、また会員の皆様が容易に学会情報を入手できるように新規に「学会ホームページ」を開設いたしました。学会内外への発信源として、あるいは交流の場としてご利用いただければ幸甚に存じます。そして、是非、会員の皆様方が全員参加していただき、目的の達成に向けてご協力いただければ幸甚に存じます。そしてまた、非会員の方々に上記領域に興味を持ち、また志向しておられる方々は是非本学会にご入会いただき、ご参加いただければ幸甚に存じます。

平成 17 年 7 月 1 日 記